

芸短生 動物園 ウォッチ

ホッキョクグマの暑さ対策は？

昨年11月、天王寺動物園にホッキョクグマの赤ちゃんが誕生したことが話題になりました。生まれた子グマはホウちゃんと名前が決まり、今やすっかり人気者に。

初めて迎えた暑い夏を、お母さんのイッチちゃんとともにどんなふうに過ごしているのか、取材してきました。

(大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科 山口優美)



繰り返しダイブ

現在お父さんのゴーゴは繁殖のため、横浜の動物園「ブルーシア」にいますので、天王寺動物園のホッキョクグマはイッチちゃんとホウちゃんの2頭。取材に訪れたのはかなり暑い日だったせいか、2頭とも水の中で多くの時間を過ごしていました。

イッチちゃんとホウちゃんはとても仲がいいということですが、取材当日の2頭はほとんど別行動をとっていました。やはり暑いのでしょうか、繰り返し水中にもぐってはかなり長い間浮かび上がってきません。たまに陸上上がったかと思つと、ドボン！と大きな音をたてて水の中に飛び込んでいきます。運動場には、おもちゃとしてポリタンクやカラーコーンが置かれています。そのおもちゃには、穴がたくさんあけてあり、中におやつが入っている場合があつて、おもちゃを振ると中からおやつが出てくる仕組みになっています。イッチちゃんはとても器用におもちゃを転がしておやつを食べていました。中身がなくなるまでおもちゃを離すことはなく、ちよつと離している間にホウちゃん



やっぱり親子。水の中でじゃれ合うイッチちゃんとホウちゃん

毛皮で断熱？

野生のホッキョクグマは、基本的に陸の上で生活することが多く(個体によっては、氷の上と水中で一生の多くを過ごす個体もいるそうです)、エサのアザラシや魚などを捕獲するときに水の中に入ります。

子グマは、生まれてすぐには泳げないので、母親がプールの浅いところから徐々に慣らしていきます。

もともと寒いところに生息しているクマのため、日本の暑い夏対策として動物園では寝室にクーラー、運動場にスプリングラーを設置しています。いかに暑そうな毛皮をまとっている



土を入れた遊び場で転がって遊び茶色くなったホウちゃん

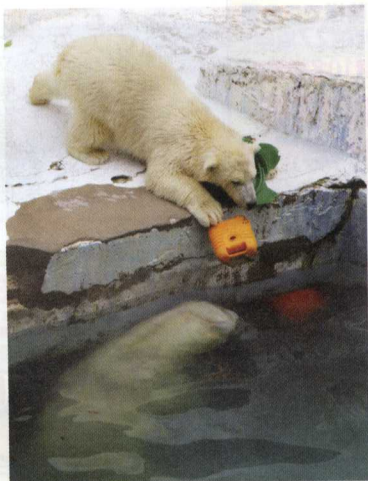
が取つても、すぐ取り返していました。完全に中身がなくなつたら、おもちゃをプールのほうへポイッと投げて、プール遊びです。すぐさまホウちゃんもおもちゃがけて泳いできました。が入っていないことがわかったと、とても残念そうにしてすぐに離していました。

地球温暖化の影響

ホッキョクグマですが、飼育員さんによるとむしろ「多少の断熱効果があるかもしれない」といっています。

イッチちゃんとホウちゃんはずっと水の中にいましたが、飼育員さんの話によると、それは遊びなのだそうです。元々の生息地の北極では水温が低い時、子グマの体温を下げないようにするため、水の中に入りたがらなくなるそうです。

泳ぎは得意なホッキョクグマですが、泳げるからといって地球温暖化で氷が溶けてしまつと困ってしまいます。氷がなくなると、氷の上で休憩するエサのアザラシなどが捕獲できなくなるからです。



おもちゃが大好き。飽きずにいつまでも遊んでいます

編集後記

とても人気のあるホッキョクグマの姿が見られてうれしかったです。おもちゃで遊んでいる姿は犬のようでとてもかわいく、泳いでいる姿も子グマは犬かきしているようで、本当に力があるように思えました。今回水の中で過ごす姿ばかりだったので、また機会があつたら親子で遊ぶ姿も見ることができたらいいと思います。



メディア・芸術学科
山口・優美

芸短ってどんなところ？ まずは授業を体験してみよう！

オープン キャンパス 体験入学



9/5(日)・10/3(日)
2022/2/6(日) ※日程は変更になることもあります。

望月けいイラスト入り
オリジナルクロッキー帳 + 望月けいイラスト入り
オリジナル下書き

参加者全員にプレゼント!!



※内容は予告なく変更する場合があります。

Webから事前申込要▼

大阪芸短



大阪芸術大学短期大学部

伊丹キャンパス/メディア・芸術学科、デザイン美術学科
大阪キャンパス/保育学科